
1. 学歴

1998 年 3 月 一橋大学経済学部卒業
2000 年 3 月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了
2007 年 8 月 ミシガン大学経済学部博士号取得(Ph.D. in Economics)

2. 職歴・研究歴

2007 年 9 月 - 2008 年 3 月 カリフォルニア工科大学人文社会科学部研究員
2008 年 4 月 一橋大学大学院経済学研究科専任講師
2011 年 4 月 一橋大学大学院経済学研究科准教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

Public Economics, 公共経済学, 現代経済論 I (実験経済学)

(b) 大学院

Public Economics, 公共経済学, 現代経済論 I (実験経済学), 経済学基礎論 II, Microeconomics for Managers

B. ゼミナール

学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学生の皆さんには、講義を通じて「教養としての経済学」を身につけてほしいと考えています。経済学は必ずしも明日の生活に役立つものではありません。すぐに景気予測ができるようになるわけではないですし、卒業生が全員、エコノミストになるわけでもないでしょう。しかし皆さんが将来どんな職業に就くとしても、経済学の考え方の枠組みは思考の助けになります。

私のゼミでは、学生1人1人が興味を持っている社会問題について、経済学的な思考の枠組みを使って説得的な主張を展開できるようにすることを目指します。自分とは違う意見を持つ人を説得するため、どんな材料を集めたらよいか。マスメディアや官公庁が公開している資料や学術論文など、膨大な資料の中から必要なものを探し出す方法が身につくようになります。また、それらを上手く組み合わせて説得力のあるプレゼンテーションをするための、編集力、文章構成力、話し方といったコミュニケーション能力を磨くことを目標にします。

4. 主な研究テーマ

専門は、実験経済学, 行動経済学。主に、組み合わせオークションや時間選好の研究に取り組んでいます。

(1) 時間選好に関する経済実験

人は、将来得られる大きな利得よりも、少ない利得を現在得ることを好む傾向があります。時間選好とは、現在と未来のトレードオフに直面する個人の意思決定にかかわる選好のことです。近年、経済学ではこの時間選好に関する研究(貯蓄・投資行動、退職や医療行為の意思決定、依存症の治療など)が進んできました。

私は、利得発生の遅延を現在時点でのリスクに置換する経済実験を行い、リスクと遅延の正の相関を確認しました。このようにリスク選好と時間選好の両方が同時に働く意思決定をテーマに研究を続けています。

(2) アイトラッキング(視線)

人の意思決定と視線には密接な関係があります。したがって、視線(どこを見ているか)を観察することで、その人の意思決定過程を推測することができます。また、逆に視線を誘導することによって、間接的に意思決定に影響を与えることもできるのです。この相互関係についての実験を行い、データを分析しています。

(3) 組み合わせオークション

組み合わせオークションとは、複数の財が同時に競りにかけられる競売のことで、買い手は複数の財を組み合わせさせてパッケージを作り、入札します。ひとつの財を競り落とすだけのオークションに関しては、すでに確立された理論があり、実験研究の蓄積も豊富にあります。しかし組み合わせオークションについては、理論的研究が今、まさに進行しているところです。また、実験を重ねることで理論の形を探っている段階です。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

Essays on Time Preference and Combinatorial Auctions, Doctoral Dissertation, University of Michigan, 2007.

(b) 論文(査読つき論文には*)

* "Multi-Object Auctions with Package Bidding: An Experimental Comparison of Vickrey and iBEA," *Games and Economic Behavior*, Vol. 68, March 2010, pp. 557-579. (with Yan Chen).

* "Scheduling with Package Auctions," *Experimental Economics*, Vol. 13, December 2010, pp. 476-499. (first author, with John C. Lin, Yan Chen, and Thomas Finholt).

* "Non-parametric Test of Time Consistency: Present Bias and Future Bias," *Games and Economic Behavior*, Vol. 71, March 2011, pp. 456-478.

* "Time Discounting: The Concavity of Time Discount Function: An Experimental Study," *Journal of Behavioral Economics and Finance*, Vol. 5, June 2012, pp. 2-9.

「耐震マンションを好む人はどこを見ているか: アイトラッカーを用いた研究」(齊藤誠と共著) 齊藤誠・中川雅之(編著)『人間行動から考える地震リスクのマネジメント: 新しい社会制度を設計する』勁草書房, 2012 年, 207-229 頁。

「アイトラッキングの可能性」齊藤誠・中川雅之(編著)『人間行動から考える地震リスクのマネジメント: 新しい社会制度を設計する』勁草書房, 2012 年, 230-241 頁。

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

「逆 S 字型時間割引関数と未来バイアス」, 大阪大学 GCOE ダイナミクスと選好の経済分析コンファレンス (2012 年 11 月 23 日)

「視線と意思決定モデル: アイトラッキングによる分析」第 6 回行動経済学会(青山学院大学, 2012 年 12 月)

- 「実験経済学：論文のポピュラリティと研究のデューデリジェンス」, 京都大学経済実験室オープニング記念ワークショップ(2013 年 2 月 2 日)
- 「Non-parametric test of time consistency: Present bias and future bias」, 行動経済学・行動ファイナンスの発展 (大阪大学行動経済学研究センター, 2014 年 2 月 15 日)
- *「Eye tracking under uncertainty」, 第 2 回京都大学実験経済学ワークショップ(京都大学, 2014 年 2 月 16 日)
- 「Eye movement, drift-diffusion model and the choice」, 第 20 回 RISS 総合研究会(関西大学, 2014 年 2 月 17 日)
- 「Drift-diffusion model and Gaze Cascade」, 2014 ESA International Meetings(ハワイ大学, 2014 年 6 月 28 日)
- 「ジェンダー差の文献紹介」, 京都大学フィールド実験ワークショップ(京都大学, 2014 年 9 月 30 日)
- 「Eyetracking on HEMS monitors: What do users see for energy saving?」, 2014 BEHAVIOR, ENERGY & CLIMATE CHANGE CONFERENCE(ワシントン DC, 2014 年 12 月 9 日)
- 「Eyetracking on HEMS monitors: What do users see for energy saving?」, 第 3 回京都大学実験経済学ワークショップ(京都大学, 2015 年 1 月 31 日)
- 「実験プログラム(Differential-revelation mechanism)の解説」, 関西大学経済実験センターワークショップ(関西大学経済実験センター, 2015 年 3 月 18 日)
- 「Eyetracking on the debating behavior」, 2015 ESA European Meetings(ハイデルベルク大学, 2015 年 9 月 3 日)
- 「パネルディスカッション「行動経済学の教育」」, 行動経済学会第 9 回大会(近畿大学, 2015 年 11 月 29 日)
- *「KANSEI: The Implications from Economic Experiments on Music and Decision-making」, International Society of Affective Science and Engineering (ISASE) (工学院大学, 2016 年 3 月 21 日)
- 「[実験+社会科学]は社会を変えたか?」, 第 20 回実験社会科学カンファレンス (同志社大学, 2016 年 10 月 30 日)
- 「Beetles play Nash: Mixed strategy equilibrium in their horn length」, 2017 ESA Asia-Pacific Meetings(台湾国立大学, 2017 年 2 月 17 日)

(b) 国内研究プロジェクト

- 「高質の住宅ストックを生み出し支える社会システムの設計」近未来の課題解決を目指した実証的科学研究推進事業, 2008 - 2012 年度, 研究メンバー(研究代表者: 齊藤誠)。
- 「時間選好とリスク選好を統合した実験経済学的研究」文部科学省科学研究費補助金, 若手研究(B), 2010 - 2012 年度, 研究代表者。
- 「眼球運動と経済的意思決定: アイトラッキングを使った実験研究」文部科学省科学研究費補助金, 若手研究(B), 2013 - 2015 年度, 研究代表者。
- 「時間選好と眼球運動: アイトラッキングを使った経済実験」公益財団法人清明会研究助成, 2014 年度。
- 「省エネルギー行動変容における経済的インセンティブおよび経済性評価」東京ガス株式会社・一般社団法人日本ガス協会との共同研究, 2014 年 3 月 - 2015 年 3 月, 一橋大学側代表者。
- 「昆虫を使った経済実験による意思決定理論の実証」文部科学省科学研究費補助金, 挑戦的萌芽研究, 2016 - 2018 年度, 研究代表者。

(d) 研究集会オーガナイズ

- 日本経済学会 2012 年度春季大会・プログラム委員, 2012 年 6 月 23 - 24 日, 北海道大学

第 6 回行動経済学会・プログラム委員, 2012 年 12 月 8 - 9 日, 青山学院大学

第 9 回 Economic Science Association アジア太平洋大会・運営委員, 2013 年 2 月 15 - 17 日, 一橋講堂

第 7 回行動経済学会・プログラム委員, 2013 年 12 月 14 - 15 日, 京都大学

第 1 回 BECC-JAPAN, 2014 年 9 月 16 - 17 日, 東京大学

第 8 回行動経済学会・プログラム委員, 2014 年 12 月 6 - 7 日, 慶應義塾大学

第 10 回行動経済学会記念大会・運営責任者, 2016 年 12 月 3 - 4 日, 一橋大学

C. 受賞

Outstanding GSI Award, University of Michigan(2000 人以上の講師のなかから優秀な 20 名に与えられる最優秀講師賞), 2006 年 3 月。

6. 学内行政

(b) 学内委員会

国際学生宿舍専門委員(2011 - 2012 年度)

社会から見た大学教育自己点検・評価部会委員(2011 年 6 月 - 2013 年 3 月)

大学院奨学金返還免除者学内選考委員(2011 - 2015 年度)

経済学研究科評価委員(2011 - 2014 年度)

学部教育専門委員(2015 年度)

学士課程教育専門委員(2016 年度)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

早稲田大学政治経済学部「実験経済学」, 2009 年 - 2016 年度

東京理科大学「経営行動科学特論」, 2016 年度

中国人民大学公共管理学院, "Experimental economics and application to Japan public finance," 2014 年 9 月

(b) 所属学会および学術活動

Economic Science Association

日本経済学会

行動経済学会(理事, 2011 年 12 月 - 2013 年 12 月)

Associate Editor, Economic Inquiry 誌(2010 年 8 月 -)

Associate Editor, Japanese Economic Review 誌(2015 年 6 月 -)

(c) 公開講座・開放講座

「眼球運動と経済行動～選択の決め手は目玉か脳味噌か～」『ひらめき☆ときめきサイエンス』(主催: 日本学術振興会および齊藤誠(一橋大学), 2012 年 8 月 2 日)

「“日本最悪のシナリオ”に学ぶ「危機管理」と「リーダーシップ」～いかに“最悪”を回避するのか?～」『六本木スクール』(主催: アカデミーヒルズ, 2013 年 7 月 10 日)

「実験する行動経済学～行動経済学と私たち: 参加して実感する推論と効用関数～」『「行動経済学」一般公開シンポジウム』(主催: 京都大学経済学研究科附属プロジェクトセンター, 2013 年 12 月 15 日)

「人間の感情と経済」(主催:立命館大学経済学会学生委員会, 2013 年 12 月 19 日)

「最も身近な経済学実験～日常生活に潜む数字の罫」『早稲田文化芸術週間』(主催:早稲田大学文化企画課, 2014 年 10 月 23 日)

「実験経済学入門」(主催:早稲田大学エクステンションセンター, 2015 年 1 月 8 日 - 1 月 29 日)

「実験経済学応用編」(主催:早稲田大学エクステンションセンター, 2016 年 1 月 12 日 - 2 月 2 日)

「1から学ぶ経済学」(主催:早稲田大学エクステンションセンター, 2016 年 5 月 14 日)

(d) その他

財団法人・日本再建イニシアチブ「危機管理プロジェクト」メンバー(2012 年 5 月 - 10 月)

日本科学未来館企画展「波瀾万丈!おかね道」監修協力(2013 年 3 月 - 6 月)

省エネルギー行動研究会 発起人・運営委員(2014 年 6 月 - 2015 年 4 月)

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

法務省・司法試験予備試験審査委員(2011 年度 - 2016 年度)

文部科学省・研究振興局・学術調査官(2013 年 8 月 - 2015 年 7 月)

文部科学省・中央教育審議会・初等中等教育分科会・「教育課程部会 高等学校の数学・理科にわたる探究的科目の在り方に関する特別チーム」(2015 年 11 月 - 2016 年 5 月)

文京区「ぶんきょうハッピーベビー応援団」委員(2014 年 7 月 - 2017 年 3 月)

国立市保育審議会副会長(2014 年 7 月 - 2014 年 10 月, 2015 年 2 月 - 2016 年 11 月)

9. 一般的言論活動

「「年齢別選挙区」で子どもの声を政治に生かせ ドメイン投票より現実的。余命に応じて議席配分を」『新しい経済の教科書 2012』日経 BP 社, 44-46 頁。

ワールドビジネスサテライト特集「一票の重み」にもうひとつの格差, 世代間格差にコメント, 2012 年 5 月 31 日。

"Anti-ageing Treatment for your governance: Proposal for National Election System Based on Constituency by Life Expectancy," *Economy, Culture & History JAPAN SPOTLIGHT*, May/June 2012, pp. 21-23.

「早稲田大学で話題の講義! 竹内幹先生に「実験経済学」を学ぶ」星海社『ザ・ジセダイ教官 知は最高学府にある第3回』2012 年 6 月 25 日・7 月 25 日(http://ji-sedai.jp/special/kyokan/TakeuchiKan_01.html)

「景観論争から考える「良い経済学、悪い経済学」法律の「正義」と経済学の「正義」の違いとは」『日経ビジネスオンライン』2012 年 7 月 31 日. (<http://business.nikkeibp.co.jp/article/manage/20120727/235029/>)

"Donation Culture Becoming Established in Japan through Kizuna after 3.11 Earthquake," *Economy, Culture & History JAPAN SPOTLIGHT*, November/December 2012, pp. 42-45.

「書評:『実験ミクロ経済学』 教室実験を通じて新しい経済教育のインフラを提供する」『経済セミナー』670 号(2013 年 2/3 月号), 129 頁。

「需要と供給の世界」一橋大学経済学部編『教養としての経済学』有斐閣, 2013 年, 101-108 頁。

「高齢者と将来世代、どちらを重視するか?」『中央公論』128 巻 4 号(2013 年 4 月号) 120-123 頁。

「第 9 章 人口衰弱(シナリオ原案)」財団法人日本再建イニシアティブ『日本最悪のシナリオ 9 つの死角』新潮社, 2013 年。

「2050 年、超高齢化社会でニッポンの未来はどうなるのか?」『荻上チキ・Session-22』TBS ラジオ, 2013 年 4 月 17 日。

「未来を選べ！若者の投票率を上げるには」『報・動・力』2013年4月28日放映, KSB 瀬戸内海放送。

「余命別選挙制度」とは？」『堤未果の JAM THE WORLD』J-WAVE, 2013年5月8日。

「景観論争から考える「良い経済学、悪い経済学」」『新しい経済の教科書 2013-2014 年版』日経 BP 社, 102-104 頁。

「保育園～知恵の木の実を食べても終わらないエデンの園」『HQ』2013年夏号, 50 頁。

「5 分間クイズに挑戦、「思考の弱点」がわかる」『プレジデント』2013年9月2日号, 26-28 頁。

「男女共同参画と女性研究者の育成・支援シンポジウム」登壇, 一橋大学女性研究者支援室, 2014年1月23日。

「規制緩和は少子化対策にならない」『金融ジャーナル』2014年5月号, 88-89 頁。

「合理的戦略とは何か: 経済実験を通じた考察」『受験サプリー 学問研究ツアー: 大学での学問を覗いてみよう』, 2014年5月17日。

「人はなぜ迷うのか～眼球運動と経済的意思決定の関係」『科研費 NEWS』2014年度 Vol.1, 5 頁。

「実験経済学と行動経済学: 実験しなきゃ始まらない」『経済セミナー』号(2014年8/9月号), 37-41 頁。

「終身年金は本当に嫌われているのかー行動経済学的考察ー」『季刊個人金融』2014年夏号, 22-31 頁。

「社会科学系の学びの実例 インタビュー」『東進進学情報』Vol.228, 2014年8月22日号。

「男女の行動の違い」『やさしいところと経済学』日本経済新聞, 2014年12月4日 - 12月17日。

「真の投資なら「もうかる」とは言わない」『日本経済新聞 Web 刊』2015年1月22日, マネー頁。

「家事・育児の責任を自然と感じられるパートナー選びを」『Roll Model』, 2014年12月4日。

「父親の子育てスイッチをいれる」文京区ハッピーベビーフェスタ: ミッコ・コイヴマー氏(フィンランド大使館参事官)と対談, 2015年3月22日。

「ラボ実験とフィールド実験: 学生の学生相手の実験のどこが悪いのか」『経済セミナー』, 684 号(2015年6/7月号) 58-63 頁。

「ビジネスにおける男性の意思決定、女性の意思決定」『女性管理職 育成プログラム』, CICOM, 2015年10月16日。

「マーケティングの行動経済学」『応用脳科学ニューロエコノミクスセミナー第2回』, NTT データ経営研究所, 2015年10月29日。

「パネルディスカッション「行動経済学の教育」」, 行動経済学第9回大会(近畿大学, 2015年11月29日), 『行動経済学』第8巻(2015年)43-54 頁に収録。

「合理的選択とは何か? 人はどこまで合理的か?」『帝国書院 現代社会へのとびら』, 2015年度3学期号, 1-4 頁。

「少子高齢化時代の選挙制度——世代別選挙区と平均余命による議席配分」『世界思想』, 43号(2016年春), 25-30 頁。

「投資行動の行動経済学」『応用脳科学アドバンスコース「マーケティング」第3回』, NTT データ経営研究所, 2016年12月20日。